

【運営方針2】実践教育の充実

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】積極性や企画力、技術力、経営管理能力、コミュニケーション能力等、経営者としての資質の向上

評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
(1)少人数制や多様な進路に沿った濃密な学習支援	1 進路決定率:100% 2 就農率:60%	① 少人数制による濃密な学習支援(継続) 各学科とも少人数制となり、専攻科目の講義・実習においては学生の習熟度に応じた濃密指導を行い、基礎から実践的な知識・技術の習得を図る。 ② 志望進路に沿った学習支援(継続) 学生の志望進路(就農、就職、進学)に応じた科目選択を設定し、志望進路実現に向けた取組みをきめ細かく支援する。 ③ 副専攻基礎実習の設置(新規) 自らが専攻する学科以外について、実習等を通して基礎的な知識や技術習得を図り、農林業について幅広い視野を身につける。	・各学科3～15名の少人数制で、担任の「師弟同行」の精神で講義・実習を実施した。 ・講座選択や進路決定等に当たっては、学生や保護者との面談を実施した。 ・就農を目指す学生は「就農講座Ⅰ・Ⅱ」、就職を目指す学生は「ビジネス基礎講座Ⅰ・Ⅱ」、大学編入を目指す学生は「英語Ⅰ・Ⅱ」、「応用英語Ⅰ・Ⅱ」とそれぞれの進路に合わせた科目の選択が可能となっている。また、今年は「就農講座」と「ビジネス基礎講座」が合同で、農業法人代表者等からの講話を聴講した。 ・就職や4年制大学3年次編入等の試験内容に応じ、小論文や面接についても随時指導している。	1・・・C 進路決定率:100% 2・・・C 就農率:61.7%	・今後とも少人数体制による講義、実習を維持し、学生の習熟度に応じて基礎的知識や実践的技術の習得を図る。 ・担任は2者面談、3者面談を行い、学習や寮生活等の悩みを把握し、的確な進路決定に務めた。 ・次年度、進路に関する講座は雇用就農コースを追加して全4コースとし、学生のコース選択・変更が、より柔軟にできるよう改善する。 ・今年度卒業生の進路状況は下記のとおりとなった。 就農 37名(即就農11名、農業法人等への就職23名、研修後就農3名) 就職 16名(公務員等1名、農協3名、農業・食品関連10名、林業関連1名、一般企業2名) 進学 7名(4年制大学3年次編入7名) ・今年度卒業生の進路は、例年より約2ヶ月早く決定した。 ・就農率は、昨年度の40.8%を上回る61.7%となった。 ・次年度も、「就農講座Ⅰ・Ⅱ」では複数の講師が連携して、基礎から農業経営までの知識習得を図る。 ・「ビジネス基礎講座Ⅰ・Ⅱ」では、採用試験の内容に合わせて、総合適性検査や小論文、面接等の指導を行う。さらに農業法人就職希望者に対応する「雇用就農コース」を設定する。 ・「英語Ⅰ・Ⅱ」では、各大学の編入試験科目に対応した指導を実施する。また、編入試験への対応として、今年度から取り組んだ「TOEIC」の教材活用を継続し、英語力の向上を図る。 ・学生の的確な進路決定ができるよう、農大卒業生(就農者・農業法人就職者、就職者、進学者)に講師を迎え、自らの体験談を話してもらい進路ガイダンスを開催する。さらに、今年度開催した「農業法人就職と農大生との相談会」の開催や「森林の仕事ガイダンス」への参加により、学生と農業法人、林業事業者とのマッチングを図る。
(2)経営感覚やコミュニケーション能力の醸成	実施回数:20回	① 販売実習による経営能力・コミュニケーション能力の向上(継続) 農林経営者としての企画力を養成するため、定期的に「農大市場」を開催するほか、関係機関が企画するイベントにも積極的に出店する。 また、山形県アンテナショップや首都圏の果実専門店、卸売市場等での販売実習や調査を実施する。	・今年度は「農大市場」を6回開催したほか、kitokitoマルシェ、園芸試験場参観デー、山形県農林水産祭、ゆめりあ産直フェア等へ出店した。各学科の主な販売実習・市場調査は以下のとおり。 (稲作経営学科)イベント出店による卒論成果品の有機米等の試食アンケート、都内の米小売店での県産米の流通動向調査 (果樹経営学科)イベント出店によるおうとう、もも、ぶどう等卒論成果品の求評、首都圏の果実専門店訪問による農大産果実の販売実習、市場・小売店での販売動向調査(野菜経営学科) 東京都中央卸売市場や量販店を訪問しての流通動向調査、各県アンテナショップにおける農産物・農産加工品の生産・販売の動向調査(花き経営学科) 首都圏の市場、仲卸、生花店における流通動向の調査、県産花きの評価調査(畜産経営学科)和牛養牛生産、搾乳ロボット、バイオガスプラント、酪農の6次産業化等、先進事例の視察研修(農産加工経営学科)多数のイベント出店による販売実習、山形県アンテナショップでの販売実習	B 実施回数:25回	・農大市場をはじめとした様々な販売実習は、学生自らが生産した農産物、農産加工品の商品の説明し、消費者の声を聞く機会であり、経営能力・コミュニケーション能力の向上につながっている。また、新庄市内で毎月開催されるkitokitoマルシェにも学生サークルが主体となって参加し、地元生産者等との交流、情報交換を行なっている。これらの機会を生かして卒論成果品のアンケート調査等を実施し、今後の農畜産物生産や商品改善にも生かしている。 ・果樹・野菜・花き経営学科と農産加工経営学科では、首都圏の市場や小売店等を訪問しての流通動向調査を実施している。これらは、学生が県産農産物の評価に直接聞き取る貴重な機会となっており、学習意欲の喚起につながっている。また、調査実施時期が、1年生は卒論の計画段階、2年生は卒論のとりまとめ段階であるため、卒業論文の試験区設定や考察の参考となっている。 ・次年度は、各学科の販売実習や視察研修が、より実施しやすく、研修成果が高まるよう、柔軟な日程設定が可能な教育計画を編成する。
(3)成果発表会等への積極的参加	全国レベルでのプロジェクト発表会・意見発表会等での上位入賞	① 全国規模の発表会等への参加(拡充) 日ごろの学習成果の発表の場として、東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会、ヤンマー学生懸賞作文での上位入賞を目指す。また、ヤンマー学生懸賞論文に初めて応募する(新規)。 さらに、技能五輪全国大会(競技職種:フラワー装飾)への出場を目指し、全国レベルの技能等に触れることで、今後の学習意欲の喚起を図る。	・卒業論文には2学年全員が取り組み、発表会が12月に終了し、東日本農業大学校等協議会プロジェクト発表会に代表学生3名が出場した。また、意見発表の部には、校内発表会を経て2名の学生が出場した。 ・ヤンマー学生懸賞論文・作文には、今年度初めて大学生・大学院生も参加する「論文の部」に応募した。また、「作文の部」には全学生が取り組んだ。 ・今年度から林業経営学科では、森林・林業技術交流発表会(主催:林野庁東北森林管理局)に参加し、卒業論文の成果を発表した。 ・技能五輪全国大会とちぎ大会(競技職種:フラワー装飾)に、花き経営学科の学生が予選会を突破し、本県代表として出場した。	B 東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会での上位入賞 ヤンマー学生懸賞論文・作文での上位入賞	・東日本農業大学校等協議会プロジェクト発表会では、優秀賞を受賞して全国大会へ出場し、農林水産省経営局長賞(第2位)を受賞した。 ヤンマー学生懸賞論文・作文の論文の部では優秀賞(第3位)を受賞した。また、作文の部では、銅賞を受賞し、全国大会で表彰された。次年度も、論文の部と作文の部に積極的に応募する。 ・技能五輪全国大会とちぎ大会(競技職種:フラワー装飾)に出場した、花き経営学科の学生が日ごろの学習の成果を発表した。 ・卒業論文の実施にあたっては、関係機関、生産者、流通関係者等の協力・助言を受けながら取り組む。

自己評価	評価
<ul style="list-style-type: none"> 担任は、2者面談、3者面談等により速やかに進路を決定し、指導職員会議や担任会議で担任と教務・学生担当が、毎月1回情報を共有しながら進路指導を実施した。また、授業のほかにも、面接や小論文作成、総合適性検査やキャリアカウンセリングなど、学生の進路、職種等に応じた指導を行った。 販売実習や流通動向調査は、学生主体で取り組むためコミュニケーション能力の向上につながっている。さらに、卒論との関連性等、事前に学習することで学習意欲の喚起を図っていく。 成果発表会等へは積極的に参加し、きめ細やかな指導を行った結果、東日本農業大学校等プロジェクト発表会で上位入賞を果たして全国大会に出場し、プロジェクト発表の部で農林水産省経営局長賞(第2位)を受賞した。また、ヤンマー学生懸賞論文の部・作文の部でも、上位入賞を果たし、全国大会で表彰された。 	B

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	評価
<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率が100%となっているが、評価はCとなっており、低いように感じる。→今年度卒業生の進路は、例年よりも早期に100%を達成することができた。今後も学生の志望進路が実現できるよう、きめ細かい指導に取り組んでいきたい。 「就農率60%」は高い目標設定だと感じるが、本県農林業の発展には必要なことなので、是非継続して目標を達成してほしい。→今年度は、農業法人や林業・木材関連企業・団体との就職相談会やインターンシップを実施し、就農率向上と農林業の担い手育成・確保に努めてきた。これらの取組みを継続し、今後とも就農率60%を目指したい。 	B